

# 4年生 お祭りフットボール～夢中と密集のあるフットボールを～

## 1、実践の背景

サッカーを教える意味や中身はなんなのか、ここ数年自分の中で問い続けてきたことである。「じゃまじゃまサッカー」の実践を通して子どもたちは確実にサッカーに対して前向きになることは分かっていた。じゃまじゃままで獲得を狙う技術は理解しているつもりだし、それがサッカーにとって大事な技術であることもよく分かる。しかし、サッカー（欧米ではフットボール）の魅力や特質は、「戦術・戦略・コンビネーション」だけではない、もっと深く広いのではと思うようになった。そのきっかけは、休み時間の子どもたちがサッカーをしている様子を見たからだ。休み時間のサッカーは、一つのボールに群がり、ボールの動いた後を集団が移動するいわゆる団子サッカー、人数もどんどん加わり15対15など、ほとんど密集で動けない状態であった。当然、一人がボールを持つ時間はごくごく短く、一回もボールに触れず、ただボールの後を追いかけ、走り回っているだけの子どももいる。ゴールもほとんど決まらず、技術も未熟なため、多くのプレーが偶然・偶発的に起きるプレーばかりであった。「こんなサッカーで本当にこの子ら楽しいんやろか？」と思うような状態だったが、驚くことに子どもたちは、すごく楽しそうに眼をキラキラさせながらプレーに夢中になっていた。それまでの僕は、うまくなることで子どもたちは、サッカー（フットボール）を楽しめるようになるんだと信じていたが、技術的に未熟でも、子どもは熱中・没頭できるんだと知った。この休み時間の子どもの姿にこそ、サッカー（フットボール）を教材として教える意味があるのではないかと感じた。

## 2、実践の流れ

実践した4年生のクラスの実態は、数名のサッカー好きの男子が毎日のように休み時間サッカーをしていたが、他の多くの男子や女子は、サッカーをほぼやっていない状態であった。最初に「ボール運動は、すき・ふつう・きらい」の選択肢の中から子どもたちに選ばせ、その理由も書いてもらった。予想通り、男子の多くは、「すき」を選び（ボール運動と聞いたのでドッジやバスケも含まれる）、女子は「ふつう」や「きらい」が多かった。「普通」の中にも、「サッカーのボールはこわい」などサッカーへの恐怖感を持つ子が多いことも分かった。また、足では難しいし怖いけど手で扱うボールなら「すき」と答える子もいた。

すき 男12人 女2人

ふつう 男1人 女6人

きらい 男1人 女6人

初めのオリエンテーションでは、サッカーとは言わず、「4年2組で『お祭りフットボール』をしよう。」と呼びかけた。そして、フットボールの歴史を簡単に説明した。

- ①フットボールとは、もともとイギリスの村々の間でお祭りとして、一つのボールを巡り、それぞれのゴールへと通した方が勝利していたこと。
- ②当時は、手も足も使っていたこと（のちにサッカーとラグビーに分かれていったこと）。
- ③ゴールも今のような枠ではなく、海に飛び込んだり、山の頂上の壁にぶついたりと多様であったこと。
- ④ルールは、時代その他の条件などに合わせ変わってきたこと。

次に、『お祭り』と聞いてどんなイメージを持っているかを子どもに問うた。すると、「楽しい」「ウキウキ、ワクワクする。」「友だちと行けるから楽しい。」など、子どもたちは、お祭りに対して抱くイメージを答えてく

れた。さらに、お祭りは外から見ているのと参加するのではどちらが楽しいのかを問うと、「友だちと参加した方が楽しい。」という答えが返ってきた。ならば、「みんなが参加できて、楽しめるお祭りのような、フットボールを4年2組で創っていこう。」と言い、さっそくクラスを2つに分けグラウンドでフットボールをプレーした。子どもたちには、サッカーではなく、フットボールなので、手をつかってもいいことも納得させておいた。ルールは、危険なプレー禁止（子どもに何が危険なプレーかを確認しておく）以外は、なにもないので、『お祭りフットボール』となるように、そのつど話し合っ、決めていくことにしようというオリエンテーションでは話した。

日付	ゲームの形態	教師の指示	子どもの感想
1月15日	オリエンテーション クラスを適当2等分 14対14	みんなが参加できて、楽しめるお祭りのようなフットボールにしよう	サッカーとラグビーが混ざったゲームは初めてだったので面白そうだなーと思ったら本当に面白かった。でも男子のボカ蹴りはやめてほしい。
1月25日	4年1組(学年2クラス)と合同する 14対14	微妙な判断でもめたときの解決方法は、「正直じゃんけん」	人数を減らした方がいい。サッカーよりもフットボールの方が楽しかった。手でさわってもいいから面白かった。
1月29日	均等になるように話し合っ、4チームを作る 7対7、8対7など	チームに1冊のノートを渡す。作戦や感想などを書かせる。	・人数が減って、ける回数が増えて楽しかった。作戦通りにできたので良かった。誰もいないところにボカ蹴りする人がいる。
2月5日	リーグ戦 ① 人数は7対7、8対7など	ボカ蹴りは、「よいパス」か「悪いパス」か？	男子がパスを回してくれない。パスが同じ人ばかり。チームのかけ声が多かったのでも協力できて楽しかった。
2月12日	リーグ戦 ② 人数は7対7、8対7など	攻める技術、守る技術、チームワークについて考えよう	ボールを持っている人のそばにいとパスが多く回ってきた。敵のそばにいないでバラバラに散らばってほしい。
2月21日	試合前にチーム練習を取り入れる リーグ戦 ③	給食時間に前のゲームのビデオを見せる。毎回、あえて何も言わずに見せていた。	今日攻める人と守る人に分かれてすると、バランスが良かったと思います。一人で走ってゴールを決める人より、パスしながらゴールした方がカッコイイと思う。
2月26日	チーム練習 リーグ戦 ④	チーム練習はミニゲーム中心	ゴールへ先回りしてパスをもらってゴールへ入れたらいいと思った。(オフサイドにつなぐ?) サイドから攻めるといいと思う。
2月28日	チーム練習 リーグ戦 ⑤	みんなが楽しむためには、フェアプレーの精神を持つことが大事と話し合う	囲まれる前にパスする。強い人をマークする。相手の動きを予想しチームノートに書いて休み時間に練習したい。
3月5日	チーム練習 リーグ戦 ⑥		攻めるときは、ゴールの所に行って、守る時は、すぐに返ることができてよかった。苦手な人が点を取ったり、最初より動いているので良かった。
3月8日	チーム練習 リーグ戦 ⑦		とてもおもしろかったし、楽しかったです。なぜかという、声をかけ合っ、パスしながらゴールするのがおもしろかったし、パスしてもらえた時、とても嬉しかったです。

子どもが書いた感想(技術やルール違反者への困惑についてが多かった)について話し合い、次回の授業に活かしていくようにした。ルールは、コートラインも何もかかずゴールがあるのみ。ボールを手で持っているとき、相手にタッチされたら味方にパスしないとイケない。(タッチされたされてないでよくもめた。)足を使う場合は、タッチされても関係なく続けられる。(足を有利にしてサッカーへの発展を狙ったが子どもは圧倒的に手で操作していた。)基本人数は7人対7人。(今年は4人対4人で実践した)途中でパスについては問うたが、技術的なことはあまり言わず、密集・混沌の経験を子どもにくぐらせることを重視した。まだまだ、実験的な実践で子どもの技術的な結びつきが弱いと思う。今後、検討・発展させていきたい。